

附 録

幼稚園は文字を教えるところではない。しかし、姓名く
らいは書くし、唱歌その他をボードに書くことは、いく
らもある。それには、新しくきめられたかなづかいによる
ことが必要である。學校の教科書もそうなるし、子どもの
繪本も、おとなの新聞雑誌もそうなる。家庭や幼稚園で、
舊かなづかいを書いては、子どもをこんらんさせる。そのた
めの参考として下さい。例は幼稚園などでも使うことがあ
るかもしれない普通日常のやさしい言葉だけにした。(尚
本誌も全部新しいかなづかいにした。諸先生の原稿も出
來るだけ直させていたゞいたが完全でないかもしれない。
しかし、子どもに示すものは必ず正しく一定したい。)

(編輯部)

現代かなづかい

(一)

一、このかなづかいは、大體現代語音にもとづいて、現代
語をかなで書きあらわす場合の準則を示したものであ
る。

一、このかなづかいは主として現代文のうち、口語體のも
のに適用する。

一、原文のかなづかいによる必要のあるもの、またはこれ

を變更しがたいものは除く。

表記に關する通則

- 第一 ア列長音は、ア列のかなに^あをつけて書く。
 - 第二 イ列長音は、イ列のかなに^いをつけて書く。
 - 第三 ウ列長音は、ウ列のかなに^うをつけて書く。
 - 第四 エ列長音は、エ列のかなに^えをつけて書く。
 - 第五 オ列長音は、オ列のかなに^うをつけて書くことを本則とする。
 - 第六 ア列拗音の長音は、ア列拗音のかなに^あをつけて書く。
 - 第七 ウ列拗音の長音は、ウ列拗音のかなに^うをつけて書く。
 - 第八 オ列拗音の長音は、オ列拗音のかなに^うをつけて書くことを本則とする。
 - 第九 拗音をあらわすには、や、ゆ、よを用い、なるべく右下に小さく書く。
 - 第十 促音をあらわすには、つを用い、なるべく右下に小さく書く。
- 第一 お、え、を、は、い、え、おと書く。たゞし助詞のを除く。
- 例 一、おをいと書くもの。

いど(井戸) いのしし(猪) くわい(慈姑) あり(藍)
まいる(参る) いる(居る)
しんるい(親類)

二、ををえと書くもの

こえ(聲) つえ(杖) すえ(末)
うえる(植ゑる) すえる(掘ゑる)

ちえ(智慧)

こうえん(公園) いちえん(一圓)

三、ををえと書くもの

おけ(桶) おか(岡) うお(魚) とお(十) おどる(踊る)
おしえる(教へる) おしり(惜しり) おかし(を)

かし(あおい) 青い)

第二 ぐわ、ぐわはか、がと書く。

例

一、ぐわをかと書くもの

かがく(化学) か(い) (貨幣) かふん(花粉)
かし(菓子) かじ(火事) かもく(課目)

二、ぐわをがと書くもの

がいこく(外国)
いちがつ(一月)
がんやく(丸薬)

第三 ぢ、づはじ、ずと書く。

例

一、ぢをじと書くもの

あじ(味) ふじ(藤) わらじ(草鞋)
ねじる(捻ぢる) はじる(恥ぢる) よじる(攀ぢる)

二、づをずと書くもの

う判ら(鵜) うず(渦) みず(水)
ゆする(譲る) う判める(埋める) さずける(投げる)
めずらしい(珍らしい) はずかしい(恥かしい)

しずかに(静かに) まず(先づ)

だいず(大豆) ずじよう(頭上) ずが(圖書)

(1) たゞし、二語の連合によつて生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

はなぢ(鼻血) ひぢりめん(緋縮緬)

ちかぢか(近々) みそづけ(味噌漬)

みかづき(三日月) ひきづな(引綱)

つねづね(常々) いれぢえ(入智慧)

ちやのみぢやわん(茶飲茶碗)

(2) 同音の連呼によつて生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

ちぢみ(縮み) ちぢむ(縮む)

つづみ(鼓) つづら(葛籠)

つづく(續く) つづる(綴る)

第四 ワに發音されるはは、わと書く。たゞし助詞のはは、

はと書くことを本則とする。

例

かわら (瓦) かわ (河) にわ (庭)

あらわす (著す) まわる (廻る) こわれる (毀れる)

あらわない (洗はない) あつかわない (扱はない)

うたわない (歌はない) かわいらしい (かはいらしい)

くわしい (詳しい) けわしい (険しい) びわ (枇杷)

第五 イに發音されるひは、いと書く。

例

うぐいす (鶯) たい (鯛) はい (灰) いいわけ (言譯)

ついやす (費す) たいらげる (平げる) ならいます (習ひます) おもいます (思ひます) したがいます (従ひます)

ちいさい (小さい) こいしい (戀しい)

ついに (遂に)

第六 ウに發音されるふは、うと書く。

例

あらう (洗ふ) まう (舞ふ) あう (合ふ) かう (買ふ)

うたう (歌ふ) しまう (撓ふ) ゆう (言ふ) くらう (食ふ)

すう (吸ふ) ぬう (縫ふ) ゆう (結ぶ) くるう (狂ふ)

あらそう (争ふ) うけあう (請負ふ) おもう (思ふ) あやう (危う)

第七 オに發音されるふは、おと書く。

例

あおい (葵)

あおく (仰ぐ) あおる (煽る) たおす (倒す)

第八 エに發音されるへはえと書く。ただし助詞のへは、へと書くことを本則とする。

例

かえる (蛙) いえ (家) まえ (前) かんがえ (考) かえ

る (歸る) さえする (轉る)

すくえ (救へ) ひろえ (拾へ)

さえ (助詞さへ)

第九 オに發音されるほは、おと書く。

例

いきおい (勢) かお (顔) しお (鹽) におろ (包)

おおかみ (狼) おおやけ (公) こおり (氷) こさち

ぎ (蟋蟀) ほおずき (酸漿) ほお (頬) もよおし (催し)

なおす (直す) しおおせる (爲遂せる) とどおる (滯る)

とさ (通る) おお (多) おおき (大きい)

なま (猶)

第十 ヌの長音は、ゆうと書く。

一、いうをゆうと書くもの

ゆうびん (郵便) りゆう (理由) しょゆう (所有) ゆう

ぎ (遊戯)

二、いふをゆうと書くもの

第十一 エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例

あおい (葵)

ねえさん(姉さん) ええ(應答の語)

第十二 オの長音は、おうと書く。

例

一、あうをおうと書くもの。

おうか(櫻花) ちゆうおう(中央) おうむ(鴨鵝)

おうう(奥羽)

二、わうをおうと書くもの

よおう(弱う)

おうらい(往來) こくおう(國王) おうじ(皇子) ちう

こん(黄金)

三、あふをおうと書くもの

おうぎ(扇) おうみ(近江)

四、はうをおうと書くもの

あおう(逢はう) かおう(買はう) まおう(舞はう) こおう(強う)

第十三 ヨおよびゴの長音は、こう、ごうと書く。

例

一、かうをこうと書くもの

こうじ(麴) こうがい(井) こうへ(神戸)

さこう(咲かう) きこう(聞かう)

こうばし(かうばし)

あこう(赤う) ちこう(近う) こう(斯う)

二、くわうをこうと書くもの

こうせん(光線) こうしよく(景色) こうぞく(皇族)

三、かぶをこうと書くもの

こうおつ(甲乙) たいこう(太閤)

四、こぶをこうと書くもの

こう(劫)

五、がうをこうと書くもの

いそごう(急がう) なごう(長う)

ばんごう(番號) さいごう(西郷)

六、ぐわうをこうと書くもの

ごうごう(轟々)

七、がふをこうと書くもの

いちごう(一合)

八、こぶをこうと書くもの

えいごう(永劫)

第十四 ソおよびゾの長音は、そう、ぞうと書く。

一、さうをそうと書くもの

はなそう(話さう) かえそう(返さう) ちらそう(散ら)

さう(あそ)う(浅う) くそう(臭う)

そう(然う)

そうじ(掃除) そうちよう(早朝) たいそう(體操)

二、さぶをそうと書くもの

ぞうろう(候々)

三、ざうをぞうと書くもの

せいぞう(製造) ぞう(象) しょうぞう(肖像)